

2019年度文部科学省「人権教育研究指定校事業」事業実施計画書

Ⅱ. 研究指定校における取組

研究指定校名 : 北海道札幌稲雲高等学校

1. 学校の概要

学校名	北海道札幌稲雲高等学校
学級数	21 学級（1 学年 7 学級、2 学年 7 学級、3 学年 7 学教）
児童生徒数	全生徒数 827 人（平成 31 年 1 月 16 日現在）
URL	http://www.s-touun-h.hokkaido-c.ed.jp/

2. 調査研究のテーマ

（1）調査研究のテーマ

「学校の教育活動全体を通して組織的に行う人権教育推進の在り方～主体的に取り組む態度と高い人権意識をもった地域・社会に貢献できる人材の育成を目指して～」

（2）調査研究のテーマを設定した背景

本校は、昭和 59 年、当時の中学校卒業生急増に対応するため、地域の熱い期待を担って創立された。札幌の名峰・手稲山の緑豊かな自然に囲まれ、札幌北西部・石狩湾から増毛連峰まで一望できる素晴らしい環境の中で、学習（進学）指導、生活指導、部活動指導等、バランスの取れた「文武両道」の教育を目指している。「45 分 7 時間授業」、「国公立大学進学希望者で構成する『K クラス』の設置」、「2 学年後期からの進路希望別クラス編成」等の導入により、毎年 50 名超の国公立大学合格者を出すなどの成果を挙げてきた。本校では、これまでの実践を検証・改善しながら、引き続き、地域・社会に貢献できる人材の育成を目指して、新たな歴史と伝統を刻み続けている。

本校の生徒は、基本的な生活習慣がしっかりと身に付いている者が多く、授業や各種行事、部活動等に真摯に取り組む姿勢が見られる。しかし、与えられた課題には前向きに取り組む反面、自ら課題を見付け、解決策を考えて取り組むことには消極的な姿勢が見られる。そのため、本校生徒を地域・社会に貢献できる人材として育てるためには、自己有用感を高めることで主体的に取り組む態度を身に付けさせるとともに、人権意識を高め、自他を尊重し、相互に支え合う態度を育成することが重要である。

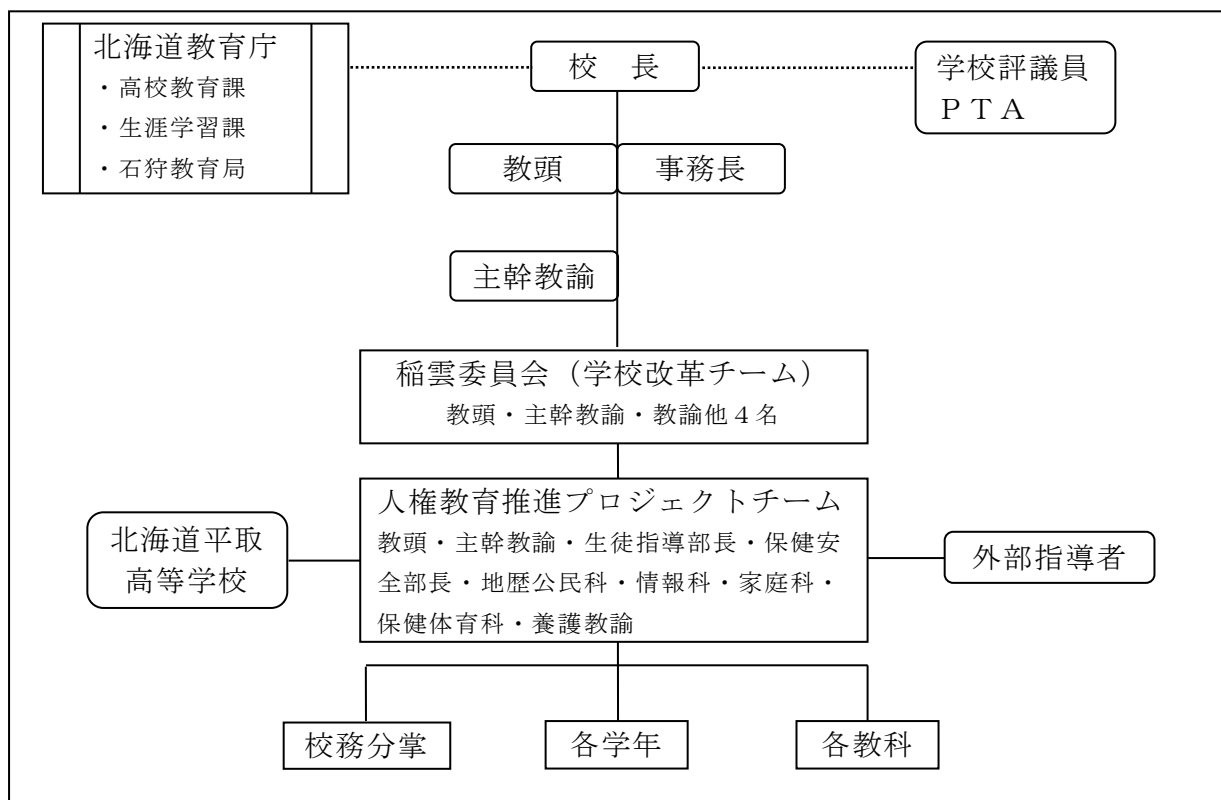
そこで、これまでの本校の実践を、「自己の在り方生き方」を考えさせる指導を踏まえながら人権教育の視点で組織的に整理・検証・改善し、それぞれの取組の中で、自他の大切さを認識させ、自己有用感及び人権意識を高揚させる指導を行うことで、主体的に取り組む態度の育成を企図することとして上記の調査研究テーマを設定した。

（3）取り組む人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	☐
②子供	☐
③高齢者	☐
④障害者	
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	☐
⑦外国人	☐
⑧HIV 感染者・ハンセン病患者等	☐
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	

⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（ ）	

3. 調査研究の推進体制



4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

本校の生徒は、基本的な生活習慣がしっかりと身に付いている者が多く、授業や各種行事、部活動等に真摯に取り組む姿勢が見られる。しかし、与えられた課題には前向きに取り組む反面、自ら課題を見つけ、解決策を考えて取り組むような積極的な姿勢に欠け、常に指示を待つ生徒が目立つ。また、学校の教育力向上に対する地域の期待も大きいことから、主体的に取り組む態度及び地域社会に貢献できる能力を持った人材を育てることが本校の使命となっている。

(調査研究の内容)

上記の課題を踏まえ、自己有用感及び人権意識の醸成・高揚を図ることを目的として次の人権教育の取組を行うことにより、生徒が主体的に取り組む態度及び地域社会に貢献できる能力を身に付けられるようにする。

○ 「総合的な学習（探究）の時間」における取組（実施学年）

- ・ 人権教育講演会の実施（全学年）
- ・ 福祉体験学習の実施（1 学年）
- ・ 「デートＤＶ」講座の実施（2 学年）
- ・ 生と性の講演会（1 学年）

- 教科における学習（担当教科・実施学年）
 - ・インターネットのモラル（情報科・1学年）
 - ・アイヌの人々（地理歴史科、公民科・2学年）
 - ・生命倫理（公民科・3学年）
 - ・高齢社会を生きる（家庭科・2学年）
 - ・H I V感染者（保健体育科・1学年）
- 校務分掌等における取組（回数・担当分掌）
 - ・いじめアンケート調査の実施（年2回・生徒指導部）
 - ・生徒アンケート調査の実施（年2回・人権教育推進プロジェクトチーム）
 - ・ボランティア活動への参加（年複数回・生徒会部）

（実施方法）

- ・人権教育に係るそれぞれの取組を通じて、生徒に身に付けさせたい資質・能力について、知識的側面、価値的側面、技能的側面に基づき明確化し、指導の体系化を図る。
- ・外部機関と積極的に連携したボランティア活動や福祉体験学習等を通じて自尊感情の醸成や他者との受容的・共感的な人間関係の形成を目指すなど、生徒に対し、主体的に取り組む態度と地域社会に貢献できる能力を身に付けさせる。
- ・「総合的な学習（探究）の時間」における取組、教科（情報科、地理歴史科、公民科、家庭科、保健体育科）における学習、校務分掌等における取組を通じて人権教育の取組が有機的に結び付くよう横断的に進めるなど、工夫・改善に努める。
- ・各種調査等の分析により、人権に関わる生徒の意識の実態を把握する。

（検証・評価・普及）

＜期待される成果・効果＞

- ・学校の教育活動全体を通じて人権教育を行うことにより、生徒の主体的に取り組む態度や地域社会に貢献できる能力の育成に資することができる。
- ・外部機関と積極的に連携したボランティア活動や福祉体験学習等を通じて自尊感情の醸成や他者との受容的・共感的な人間関係を構築することができる。
- ・研究成果を本校のウェブページや各研究協議会や研修会などを通じて周知することにより、各学校における人権教育の推進に資することができる。

＜検証・評価の方法＞

- ・人権教育講演会や公開授業等を外部の方々に公開し、意見や評価をいただく。
- ・生徒アンケート調査、いじめアンケート調査及び道教委の学習状況等調査等により、生徒の意識の変容等を把握する。

（２）実施計画

時 期	内 容	備 考
4月上旬	第1回人権教育推進プロジェクト委員会開催 （平成31年度の研究計画案の協議・検討）	参加者9名
4月上旬 ～下旬	各教科・各分掌・各学年による人権教育研究	教職員全員
5月上旬	第1回いじめ調査アンケートの実施、分析 「人権教育研究指定校事業」連携委員会等の設置（平取高校との連携）	全校生徒
6月上旬	第1回人権に関する生徒アンケート調査の実施、分析	全校生徒
6月中旬	校内研修（人権教育） ※遠隔会議システムを活用して平取に配信	教職員全員

8月上旬	ボランティア活動推進の実施（一人1ボランティア）	
9月下旬	先進校視察（東京都）	参加者1名
	第2回人権教育推進プロジェクト委員会開催 （平成31年度前期反省、後期の協議・検討）	参加者9名
11月上旬	第2回いじめ調査アンケートの実施、分析	全校生徒
11月中旬	人権教育研究報告会 ※遠隔会議システムを活用して平取に配信	
1月下旬	第2回人権に関する生徒アンケート調査の実施、分析	全校生徒
2月中旬	第3回人権教育推進プロジェクト委員会開催 （平成31年度後期反省、研究報告の協議）	参加者9名
3月中旬	研究報告の印刷・配付	配付先：教育委員会等

（3）人権教育に係る年間指導計画

実施予定	対象学年	内 容	備考
4月上旬	全学年	学校生活を考える	
4月上旬	全学年	構成的グループエンカウンター	
4月中旬	全学年	交通安全教室	警察官
4月中旬	1学年	「ケータイマナー」教室	外部講師
5月上旬	全学年	第1回いじめ調査アンケート	
6月上旬	全学年	第1回人権に関する生徒アンケート	
6月中旬	部活動	救命講習会	消防署員
6月下旬	全学年	第1回防災避難訓練について	消防署員
8月上旬	全学年	ボランティア活動への参加	
9月上旬	1学年	生と性の講演会	外部講師
10月中旬	2学年	構成的グループエンカウンター	
11月上旬	2学年	「デートDV」講座	外部講師
11月上旬	2学年	カタリバ（動機付けキャリア学習プログラム）	外部講師
11月上旬	全学年	第2回いじめ調査アンケート	
11月中旬	全学年	薬物乱用防止・防犯教室	警察官
11月中旬	全学年	人権教育講演会	外部講師
11月下旬	全学年	第2回防災避難訓練について	消防署員
12月中旬	1学年	福祉体験学習の実施	外部講師
1月下旬	全学年	第2回人権に関する生徒アンケート	
3月上旬	1・2学年	自転車マナー教室	外部講師